

令和6年度 アドバイザリーボード

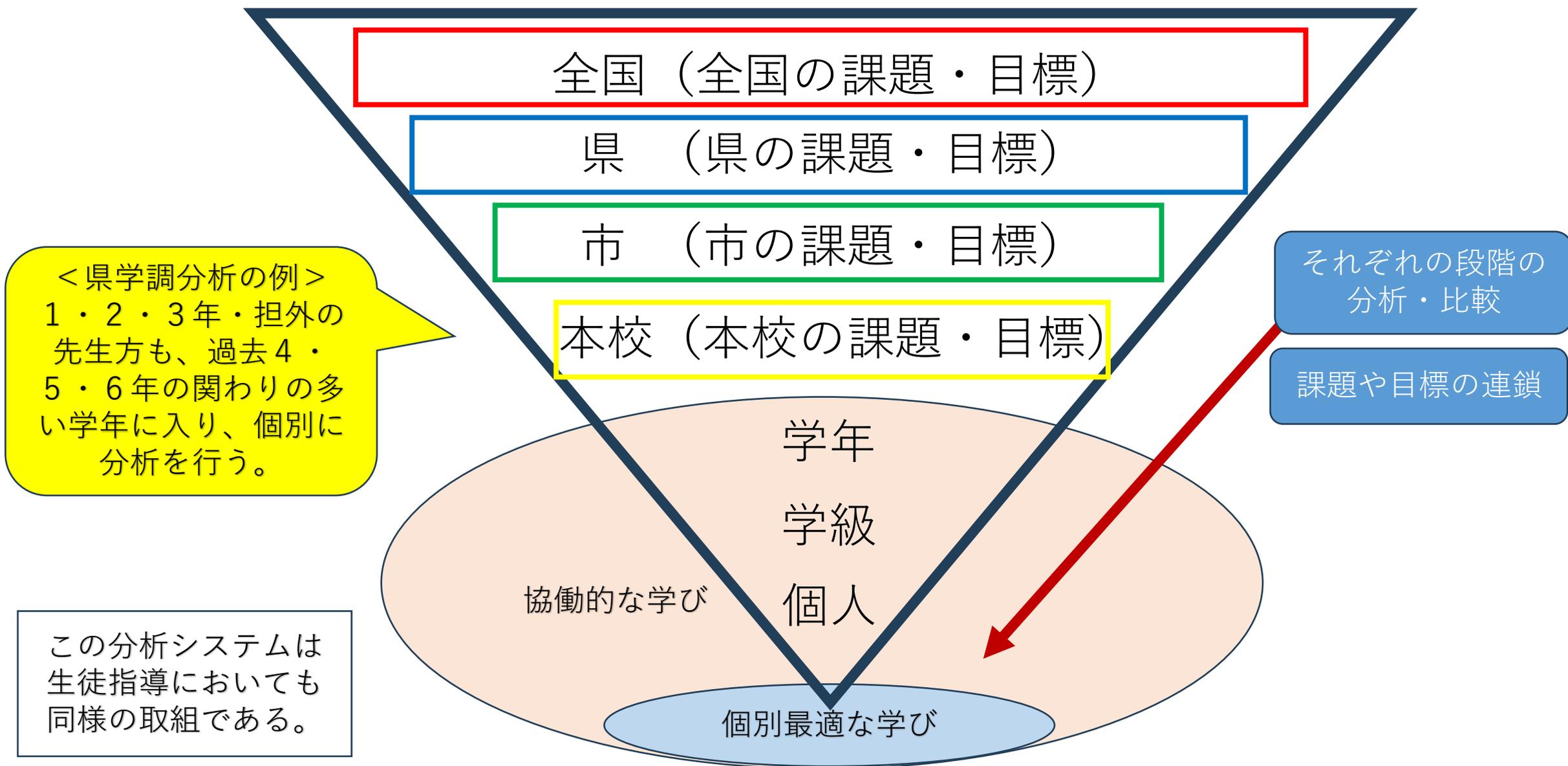


県学調の分析と本校の取組



令和7年 3月12日 箕目東小学校
主幹教諭 相墨 多計士

1 笹目東データ分析システム



2 県学調 6 年生の結果

笹目東小 < 市 < 県

比較して + - 5 以上差 - 10 以上差

(1) 平均正答率と傾向

	国語			算数			R 5 → R 6 学力の伸び	
	R 6 国語%	レベル	比較対市県	R 6 算数%	レベル	比較対市県	国語	算数
本校 (小 6)	49	6-B		44.1	5-A		1	2
戸田市	57.1	7-C	-8.1	51.3	6-B	-7.2	1	1
埼玉県	56.7	7-C	-7.7	50.9	6-B	-6.8	0	1

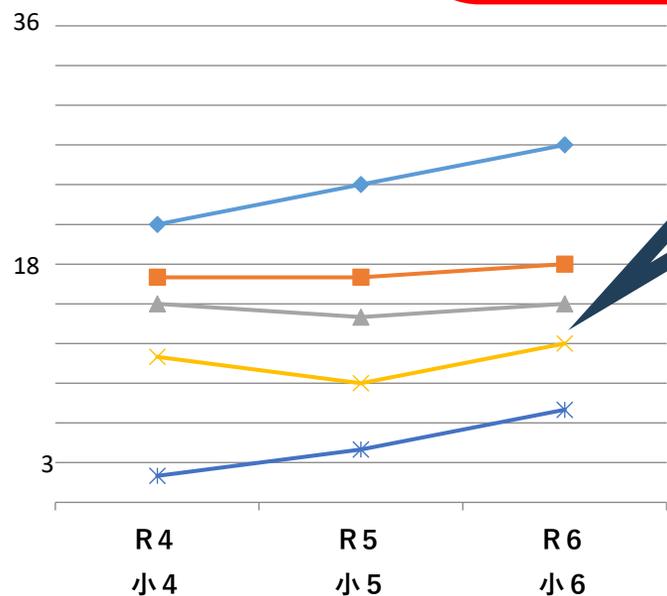
(2) 学習指導要領の内容（国語）や領域（算数）別の平均正答率の状況

< 国語 >

項目	国語 <内容等>				課題	国語 <観点>	
	言葉の特徴や使い方	情報の扱い方、我が国の言語文化	話すこと・聞くこと、書くこと	読むこと	知識・技能	思考力・判断力・表現力	
本校（小6）	57.4	44.2	46.1	37.5	55.9	40.6	
戸田市	63.3	52.7	52.5	50.3	62	51.1	
埼玉県	62.8	55.3	52.1	49.4	61.9	50.4	
比較 対市	-5.9	-8.5	-6.4	-12.8	-6.1	-10.5	
比較 対県	-5.4	-11.1	-6	-11.9	-6	-9.8	

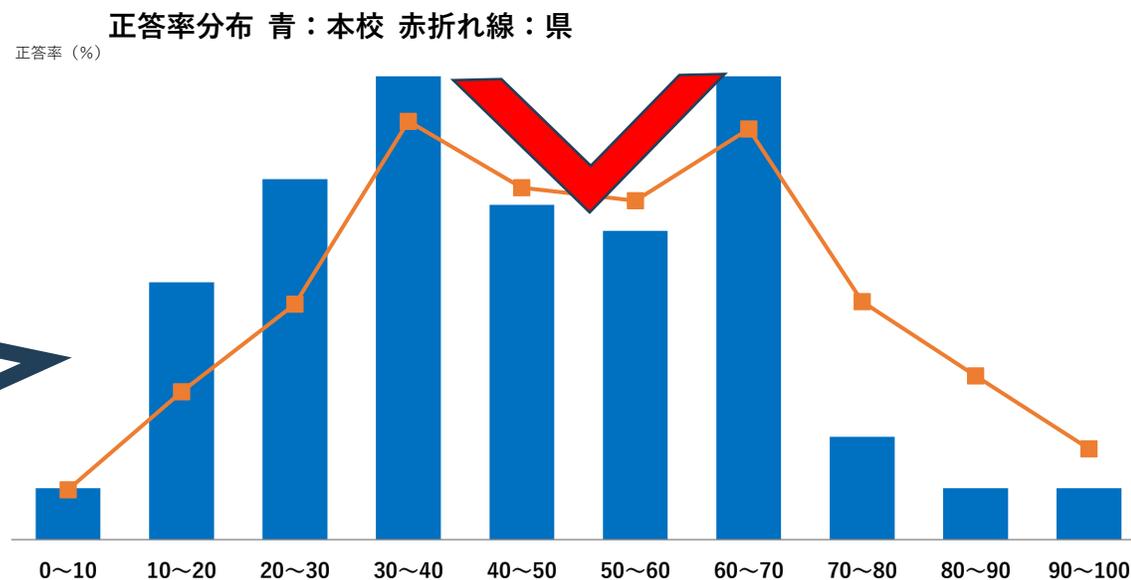
(3) 伸び率の分析と考察 < 6年 算数 >

項目	学力の伸びに関する割合			学力レベルの推移		
	学力を伸ばした児童の割合	学力が伸びなかった児童の割合	学力の伸び率 (R6学力レベルとR5学力レベルの差の平均)	R4 小4 レベル (平均)	R5 小5 レベル (平均)	R6 小6 レベル (平均)
本校 (小6)	66.7	33.3	2	5-B	5-C	5-A
戸田市	63.1	36.9	1			
埼玉県	54.8	45.2	1	5-B	6-A	6-B
比較 対市	3.6	-3.6	1			
比較 対県	11.9	-11.9	1			



★ 中間層での伸び悩み傾向

★ 2極化の傾向



(4) 質問紙を参照した学習方略と非認知能力の伸び 6年
 (※帳票40参照)

	国語			算数・数学			R5→R6(変化量)							
	R6レベル	昨年度からの学力の伸び	R5レベル	R6レベル	昨年度からの学力の伸び	R5レベル	主体的・対話的で深い学びの実施	学習方略				非認知能力		
								柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	やりぬく力
学校平均	6-B	1	6-C	5-A	2	5-C	-0.1	-0.1	0.0	-0.1	-0.1	-0.2	0.0	-0.2
市町村平均	7-C	1	6-A	6-B	1	6-C	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	0.0	-0.2	-0.1	-0.1
埼玉県平均	7-C	0	7-C	6-B	1	6-C	0.0	0.1	0.1	0.0	0.1	-0.2	0.0	-0.1

非認知能力

- 自制心…イライラしない、心の平静を保てるなど
- 自己効力感…自分はそれが実行できるという期待や自信
- 勤勉性…やるべきことをきちんとやるなど
- やり抜く力…粘り強い、根気があるなど
- 向社会性…相手の気持ちを考える、親切にするなど

学習方略…学習の効果を高めるために子供が意図的に行う活動

- 柔軟的方略…学習の仕方を自分の状況に合わせて柔軟に変更していく活動

- プランニング方略…計画的に学習に取り組む活動

- 作業方略…ノートに書く、声に出すといった、「作業」を中心に学習を進める活動

- 認知的方略…より自分の理解度を深めるような学習活動

- 努力調整方略…「苦手」などの感情をコントロールして学習への動機を高める活動

(5) 小問別の状況（特に課題として捉えられる問題※正答率の低い問題） 考察

国語

正答率 (本校/県)	問題の概要 [※設問番号]	出題の趣旨 <※内容/観点>
W 1 20.0/23.6%	熟語の漢字の組み合わせの説明として適切なものを選択する。 [4]	熟語の構成を理解する。 <言葉の特徴や使い方/知識・技能>
W 1 20.0/30.9%	文章の表現について同義の表現を文中から抜き出す。 [20 (2)]	情景描写を正しく読み取る。 <読むこと/思考・判断・表現>
21.1/26.3%	文の主語を抜き出す。 [10]	文の構成を理解する。 <言葉の特徴や使い方/知識・技能>

算数

★わからない問題へのあきらめか、ワースト1・2は無回答率が高い。

正答率 (本校/県)	問題の概要 [※設問番号]	出題の趣旨 <※領域/観点>
2.1/3.9%	帯グラフと折れ線グラフの読み取りから数量を答える。 [9 (3)] ・無回答率35.8%	与えられた場面を数学的に解釈し、データを基に考察することができる。 <データの活用/思考・判断・表現>
6.3/17.1%	円グラフにある百分率から数値を求める [9 (1)] ・無回答率43.2%	円グラフの見方についてと百分率について理解している。 <データの活用/知識・技能>
14.7/23.3%	異分母分数の加法を適用する文章問題を解 [3 (2)]	異分母分数の加法を理解し、数量を求めることができる。 <数と計算/知識・技能>

3 結果を分析して

< 共通項 >

① 平均正答率… 4・5・6年共通して国語・算数共に**全国・県・市より低い。**

国語「読むこと」が高学年で低い。

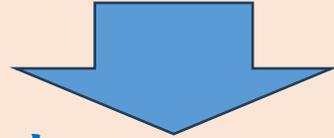
算数で未解答などあきらめる傾向。

② 5・6年の国語・算数における伸び率

…**中間層の伸び悩み。**

③ 5・6年の国語・算数における正答率の正規分布

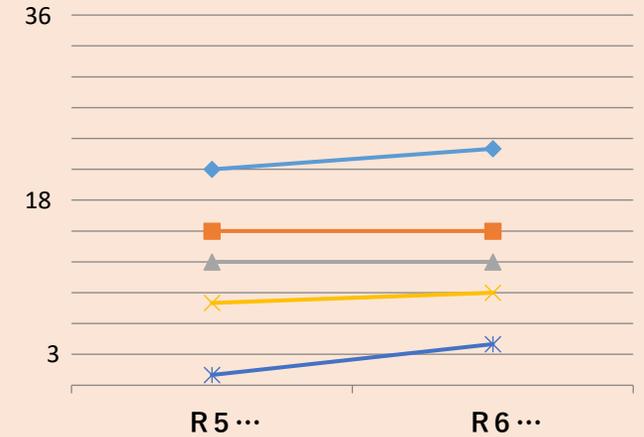
…**2極化の傾向。**



★①②③から考えられること

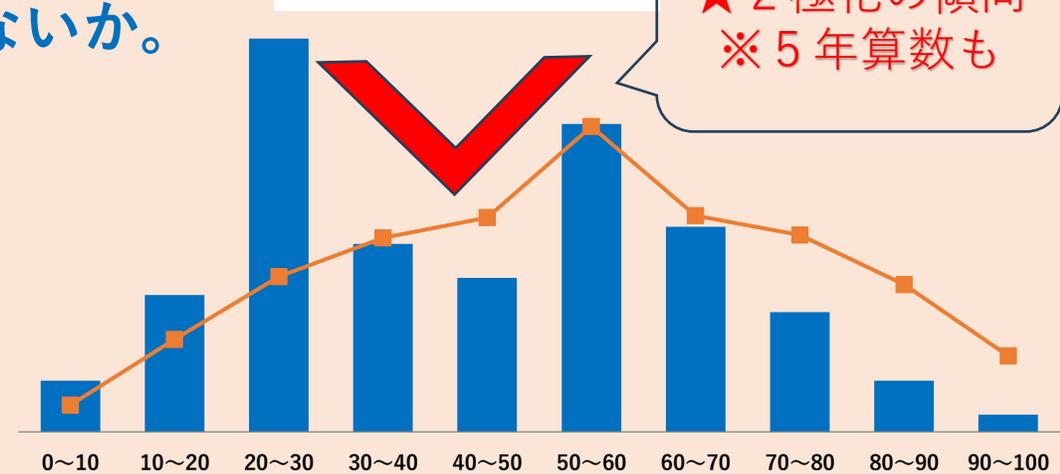
- ・平易に解ける知識・技能に特化した指導に陥っていないか。
- ・かつて「個に応じた指導」という名のもとに知識・技能面に特化した習熟度別指導の弊害として**2極化の傾向**が課題とされた。本校においても、知識・技能面に特化して、プリント学習やドリル学習に比重が偏りすぎていないか。

★中間層での伸び悩み傾向
※5年算数も



正答率 (%)

★2極化の傾向
※5年算数も



4 「授業力」向上プランにおけるPANDA学習

R6 戸田市立笹目東小学校
「授業力」向上プラン

学校教育目標
 ○深く考え行動する子ども ○進んで働く子ども
 ○健康でたくましい子ども ○思いやりのある子ども

笹っ子に育みたい力
(コンピテンシー)

主体性 「にこにこ」 協調性 「きびきび」 探求性 「わくわく」

実社会で生きて働く力を育成する授業の推進

- 全教育活動における協働的な学びと個別最適な学びの推進
- 授業のユニバーサルデザイン化「すっきり」「はっきり」「見える化」「学び合い」
- 学びを深めるICTの効果的な活用等 ・多様な学びの選択 ・STEAM教育の推進
- 同期と非同期の効果的な学習の推進
- 対面とオンラインの双方を使いこなすハイブリッド化

【授業改善の視点「PANDA」学習】
P: Proactive…子供が自走する、やりたい、たのしい。振り返る
 →次につなげる。誰かのためになっている。
 (主体的)
A: Ai…Aiを大人が主となって子供たちと活用する。
N: Nature…笹目東小にある動植物および自然
 (うさぎ、鳥、米作り、フルーツロード、ピオトープ)
D: Dialogic…Yes, Noだけでなく、答えのない課題について話し合う(対話的)
A: Authentic…ホンモノの学び、現実の、実際の課題を解決する。専門家に教わる。
 広げる、深める。(深い学び)

校内研修の充実

- 対話を通じた 先生も子供もわくわくする授業実践
- 専門的な知見のある指導者による研修の充実
(自由進度学習、DC教育、PBL、PBS、SAMRモデル、先生の幸せ研究所)
- データベースによる分析・改善・実践
(県学調、全国学調、授業がわかる調査、WEBQU、AIGROW、リフレクションシート、
笹っ子10の約束をもとにしたアンケート等)

プロアクティブな児童支援

- 笹っ子10の約束の徹底
- 「にこにこ」元気にあいさつ、時間を守り「きびきび」行動、
何事にも意欲的に「わくわく」取り組む笹っ子の育成
- 笹っ子応援団、保護者ボランティア活動の充実

実社会で生きて働く力を育成する授業の推進

- 全教育活動における協働的な学びと個別最適な学びの推進
- 授業のユニバーサルデザイン化「すっきり」「はっきり」「見える化」「学び合い」
- 学びを深めるICTの効果的な活用等 ・多様な学びの選択 ・STEAM教育の推進
- 同期と非同期の効果的な学習の推進
- 対面とオンラインの双方を使いこなすハイブリッド化

【授業改善の視点「PANDA」学習】

P: Proactive…子供が自走する、やりたい、たのしい。振り返る
 →次につなげる。誰かのためになっている。
 (主体的)

A: Ai…Aiを大人が主となって子供たちと活用する。

N: Nature…笹目東小にある動植物および自然
 (うさぎ、鳥、米作り、フルーツロード、ピオトープ)

D: Dialogic…Yes, Noだけでなく、答えのない課題について話し合う(対話的)

A: Authentic…ホンモノの学び、現実の、実際の課題を解決する。専門家に教わる。
 広げる、深める。(深い学び)



実社会で生きて働く力を育成する授業の推進

- ・全教育活動における協働的な学びと個別最適な学びの推進
- ・授業のユニバーサルデザイン化「すっきり」「はっきり」「見える化」「学び合い」
- ・学びを深めるICTの効果的な活用等 ・多様な学びの選択 ・STEAM教育の推進
- ・同期と非同期の効果的な学習の推進
- ・対面とオンラインの双方を使いこなすハイブリッド化



【授業改善の視点「PANDA」学習】

P: Proactive...子供が自走する、やりたい、たのしい、振り返る
→次につなげる。誰かのためになっている。(主体的)

A: Ai...Aiを大人が主となって子供たちと活用する。

N: Nature...笹目東小にある動植物および自然
(うさぎ、鳥、米作り、フルーツロード、ビオトープ)

D: Dialogic...Yes, Noだけでなく、答えのない課題について話し合う(対話的)

A: Authentic...ホンモノの学び、現実の、実際の課題を解決する。専門家に教わる。
広げる、深める。(深い学び)

< 県学調の分析とPANDA学習との関連 >

P: Proactive

...子供が自走する、やりたい、たのしい、振り返る

⇒ 学級単位の総合的な学習の時間の授業実践...ストーリー性のある単元設計
(笹っ子祭りにおいて、ごみで作った作品展示など)

★ 県学調の学習方略や非認知能力の向上

※「プランニング方略」を強みとして活かす。また伸ばす。

⇒ MOTTSOKKA (Yomokka・Sagasokka) ※デジタル図書館・辞典を導入

...ICTの有効活用と幼児教育にみる環境づくりで自発的な学びを促進(自立学習)

★ 県学調の「読むこと」の改善

N: Nature

...笹目東小学校の動植物と自然

⇒ うさぎとのふれあい体験活動(休み時間の利用)

フルーツや野菜の収穫から自校給食での食育、販売へ(学校公開等利用)

★ 県学調の学習方略や非認知能力の向上

A: Authentic... 専門家に教わる。

⇒ 学年単位(学年費)で多彩なGTを招いて体験型の授業を行う。

(みそづくり専門家・なわとびパフォーマー・獣医・音楽家・焼き物業者・ALSOK...等)

★ 県学調の学習方略や非認知能力の向上



5 同期・非同期の学び（PANDAの視点を取り入れた）

笹目東小学校の目指す「同期・非同期の学び」の姿 ver.01

段階	【同期(とじる)・非同期(ひらく)の学び】・想定する学習活動
授業外	【非同期の学び(ひらく)】 反転学習・自己の興味関心に基づいた探究学習・問いの連続・SST・外部との連携・ホンモノとの出会い・日常生活とのつながり
導入 P	【同期の学び(とじる)】 ●課題が児童の「自分事」となるために、私たちは単元や本時の導入で・・・ ・児童の言葉で「課題」を設定する。 ・学習活動の見通しを立てる。 ・児童が既有・既習の知識・経験を活用する場面を設ける。 ・児童が学習のゴールのイメージをもてるようにする。 ・児童が何を学ぶかわかるようにする。 ・ほんの少しのユーモアをもつ。 ・児童の興味関心を引く。 <具体的な児童の思い> 「おもしろそう」「やってみたい」 「もっと知りたい」 「こんなことを学ぶんだね」 <具体的な場面> ・前時までの復習をする時間 ・課題を提示する場面 ・本時のゴールを示す場面 ・予想を立てる場面(課題への見通しをもつ場面) ・体育授業等で準備(場を設定する)を行う場面 …等

【非同期の学び(ひらく Aタイプ)】

個別最適な学び

P

児童が自己調整しながら学習を進めていくための環境を整え、児童一人一人が最適な学びを追求して、個々の学習成果を高める学び

●私たちは単元や授業を通して・・・

- ・児童との単元計画の共有
- ・児童自らが取り組みたくなる環境の設定や場づくり
- ・個々の進度や達成状況の見取りと声かけ
- ・児童が適切に課題設定と振り返りに取り組める見取りと声かけ

●私たちは、児童が自分に合った課題を選べるように・・・

- ・学習到達度別の課題の準備や教材研究
- ・児童が適切な課題に向かうための見取りと声かけ

<個別最適な学びのためのグループ編成>

(発達の段階や学習内容等を踏まえて、最適なものを選択)

- ・日常的グルーピング(生活班、隣同士(ペア)、機械的に組まれた3人組)
- ・意図的グルーピング(教師が個々の能力や人間関係等を総合的に考慮して編成する)
- ・課題(プロジェクト)別グルーピング
- ・自然発生的グルーピング

協働的な学び

N・A

児童が他者と協力して問題解決に取り組む力や、持続可能でより良い社会の創り手となる資質・能力を育む学び

●私たちは、単元や授業を通して・・・

- ・児童が安心安全な雰囲気づくり。 ・ICTや思考ツールの活用
- ・意図的に協働しやすい場づくり ・目的の共有 ・SSTの実施

<具体的な場面>

- ・目的を共有する場面 ・対話する場面 ・自然環境の活用
- ・課題を解決する場面 ・新しいアイデアを出す場面
- ・ICTを活用して各自の意見を可視化する場面
- ・地域を学びの場とする場面 ・答えのない問いについて考える場面



【同期の学び(とじる)】or【非同期の学び(ひらく Aタイプ)】

●子供が学びの成果や課題を実感できるように、私たちは単元や本時のまとめ・振り返りで・・・

- ・自分の成長や課題を明確にさせたり、次回につなげたりする振り返りの時間を設ける。 ・児童の言葉で学習のまとめをする。
- ・達成できたことを称賛する。 ・児童の思いや願いを大切に次への学びへの意欲につなげる。
- ・意欲的な発言やつぶやきを大切にする。 ・次の学びで取り組みたいことを考えさせる。(習慣づける)
- ・次回に向け、行動計画を立てる時間を設ける。 ・まとめから新しい情報や問題点・視点の共有と次の学びへ接続する。

同期「とじる」学びの収束

<具体的な場面>

- ・学びのゴール(まとめ)を行う場面
- ・習熟を確認する場面
- ・片付けを一斉に行う場面
- ・次時への意欲付けを行う場面

<具体的な児童の思い>

「楽しかった」「次もがんばるぞ」
「ゴールにたどり着いたね」



非同期「ひらく Bタイプ」授業外への接続

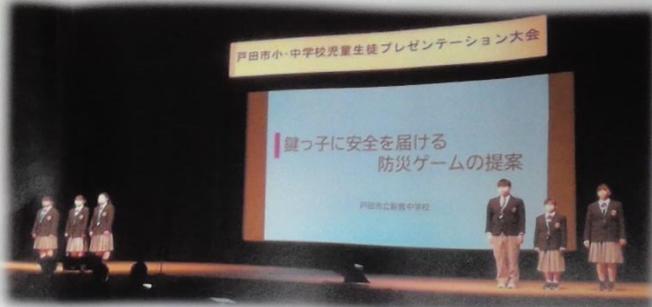
<具体的な場面>

- ・探究意欲をもてる投げかけを行う場面
- ・熱中する(問いが連続している)

<具体的な児童の思い>

「他のことで、どんなことがあるかな？」
「〇〇の場合はどうなるかな？」





令和6年度

指導の重点・主な施策

～とだっ子 やり抜く力で 未来に夢を～

戸田市教育委員会



戸田市教育委員会 facebook



アクティブ・ラーニング指導用ルースリック

アクティブ・ラーニングの視点から、**不断の授業改善**を図るため、授業を自己・他者評価する際の基本的な5つの視点を**指導用ルースリック**として示した。

視点1と視点5は、目指すべき目標と学びの評価であり、これらは**授業の根幹**と捉える。

1 児童生徒が目標を理解し、課題に興味をもって取り組んでいたか。 【目指すべき目標・評価規準の設定等】

- 指導計画に基づき、適切な目標(資質・能力の三つの柱に基づき「何ができるようになるか」)が設定できたか。
- 本時の目標に正対する評価規準・評価方法が設定できたか。
- 児童生徒の学習意欲を高められる導入場面であったか。(学習問題や課題の工夫、提示方法の工夫など)

2 児童生徒が自分の考えを表現することができていたか。 【主に主体的な学びの視点】

- 本時の課題を正しく伝え、見通しをもたせることができたか。
- 自分の考えを表現することができるように、(主につまずいている児童生徒への)支援方法を準備し、支援することができたか。
- 自分の考えを表現することができるように、教具の工夫、適切な時間や場の設定等の準備ができたか。
- 学習活動は、目標の実現につながっていたか。

3 児童生徒が友達の発言を受け止め、自分の意見と比べていたか。 【主に対話的な学びの視点】

- 児童生徒の考えを広げ深められるような、学習形態(個人、ペア、グループ、全体)は設定できたか。
- 児童生徒の考えを広げ深められるよう、教具(具体物、ICT等)を工夫し用いていたか。
- 目標の実現につながるように児童生徒の考えを可視化(ホワイトボード、ICT等)できたか。

4 児童生徒が思考・判断・表現する活動を通して「見方・考え方」を働かせていたか。 【深い学びの視点】

- 児童生徒が本時に働かせるべき「見方・考え方」は、明確であったか。
- 児童生徒に「見方・考え方」を働かせることができる学習活動を設定することはできたか。
- 児童生徒が働かせていた「見方・考え方」を可視化(ホワイトボード、ICT等)できたか。

5 児童生徒が「分かったこと」「やったこと」や「できたこと」など、 学びの成果や課題を実感していたか。 【学びの評価・振り返り】

- 評価規準・評価計画に基づき、本時の児童生徒の学習状況を捉え、個々・グループ等へ支援する(キャッチ&レスポンスする)ことができたか。
- 目標に準拠した指導と評価となるよう、学習の状況を適切に評価することができたか。
- 児童生徒が本時の学習を振り返ることができる場面が設定できたか。

本ルースリックを授業の振り返りとしてだけでなく、**単元や授業の計画づくりの段階でも積極的に活用**することで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実につなげ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る必要がある。

その際、各々が**児童生徒観**や**教材観**を十分に見つめ、教師としての**指導観**を深め、教材研究を通して教科の本質等に迫る、学びを十分に追究する姿勢を持ち続けることも大切である。(**「観」の視点**)

併せて、**教材・学習材・人材**といった学習環境を工夫することで(**「材」の観点**)、子供たちが自ら学びの時間を刻む**「非同期の学び」**が「主体的・対話的で深い学び」につながるよう、教師の働きかけを工夫すること。



R5学校訪問での達成状況

6 本校で目指す授業改善の方向性

- 「知識及び技能」面の学習を他の観点と切り離して指導する傾向に陥らないこと。
- 「思考力・判断力・表現力」や「学びに向かう力・人間性等」を重視した指導の中において「知識及び技能」面も必要に応じて身に付いていく授業観を持ち展開すること。
- 開いてせまり（非同期）、教科における授業の本質部分を協働的に学ぶ中でクローズアップし児童観で共有（同期）する。さらに問いを連続させて各自が学びを拓く（非同期）授業スタイルの実践をすること。

★本校における同期・非同期とはグループ化などの**形態に固執しない**。
一斉授業の中にあっても、協働的に表現し合い、多様・多角的に認め合い・理解し合うことで、子供たちの表現力を重視した授業を展開する。そして、自立した学び手として児童の思考が**同期（協働）または非同期（個別）の活動場面で行きつ戻りつを繰り返す**ものである。

7 笹目東小学校で目指す授業モデル

非同期

個別最適な学び

同期・非同期



同期

協働的な学び

同期・非同期



非同期

個別最適な学び

開く

閉じる（絞る）

拓く

P【教材提示と把握】

<教材>
初期の問題や事象・活動
・調べ学習
・既習の知識
・概念
・トライ＆エラー等
<表現>

**D：対話
・表現
A：見方・
考え方**

<指導方略>

- ・条件不足提示
- ・条件過多提示
- ・ミスコンセプション提示
- ・対立軸を作る
誤答への傾聴等

「なぜ？」問いの発生や必要感

P【問題や課題の設定】

授業の本質的な核となる
問題・課題をクローズアップ

**D：対話・表現
A：見方・考え方**

D【練り合い】 問題解決
新たな見方・考え方の獲得

- ・知的葛藤場面の誘発
- ・共通点と相違点への着目
- ・思考の可視化…等

<学びの習慣化>
語り始めの言葉を捉える・促す

**P：振り返り
A：見方・
考え方
探求**

A【探求】

- 子供の興味・関心にもとづき
- 解決した問題や課題の条件を変える
 - 解決した過程（方法等）を見直す
 - 関連する世界へと広げる

「じゃあ！」「もしも？」問いの連続

8 未来社会を拓く人間を育てるために



未来社会へ
生きて働く力（コンピテンシー）の向上

教職員の働き方・モチベーション

【研修推進委員会】・【情報教育委員会】

- ・ 5チームによる研究
- ・ 故くて新しい不易な学び（教科等の本質／公開研究会）と新しい学び（VRを取り入れた授業）のハイブリッド
- ・ 笹目東小学校が目指す
 - ◆ 「同期・非同期の学びの姿」
 - ◆ 「授業モデル」
- ・ AiGROW... 「共感・傾聴力」の高さ／「表現力」が課題
- ・ わかるできる調査

【生徒指導委員会】・【就学支援委員会】

- ・ 笹っ子10の約束
- ・ いじめ防止対策会議
- ・ いじめ調査
- ・ QU...学級経営状態
- ・ 笹目東小版 Well-Beingの指標
 - ...同僚性の高さ・働きやすさ
- 【イノベーション・カエル会議チーム】

<授業力向上プラン>

実社会で生きて働く力を育成する授業の推進 ⇒ 「PANDA」の視点・ICTの活用・UD...

<学校教育目標>・深く考え行動する子ども・進んで働く子ども・健康でたくましい子ども・思いやりのある子ども
<児童の実態>○人懐っこい ○子供らしい表現 ▼数値的な学力の低さ ▼生徒指導上の問題 ▼家庭環境の課題



御清聴ありがとうございました。

